

徹底分析

インターンシップ現場白書

【インターンシップ】とは

在学中に関心のある職種・分野において就業経験を積むこと。現在、外資系コンサルなどの「就職・採用活動に直結したインターン」、大手企業が独自に主催する短期間の「体験型インターン」、ベンチャー企業での「実践型インターン」など、さまざまな種類がある。インターンシップは自分の目的や得たい経験に合わせて選ぼう！

第7回

「ネットベンチャーの広報」にインターン

インターン先企業

ガイアックス

インターン実践者

佐別当隆志君 (23歳)



佐別当君の現在まで

98年夏〜99年春・大学3年
就職活動すればするほど、自分の本当の実力が知りたくなる

99年6月・大学4年
就職活動を中止。1年間休学して社会に触れることを決意

2000年3月〜4月
東京のベンチャー企業・ガイアックスに住み込みインターン

現在
正社員となり、経営企画室長として新企画を形にする日々

佐別当君のエントリーシート

アルバイト歴：レストランバー (2年)、ファストフード (3カ月)、放送局 (1カ月)

趣味：バスケットボール

特技：カクテル作り

インターン期間：2000年3月〜4月

インターンの抱負：僕の最も大きな目標の1つは、大勢の、独自のアイデアを持つ人々のコミュニティーを自分の周りにつくること。その手段として、リアル、サイバー、両方の人的ネットワークをつくれる仕事に興味を持ちました。将来はメディアを始め、マスに対して影響力が持てるような業務に携わりたいです。

彼は休学して上京し、2カ月間、住み込みでインターンとして働くことになったのだ。

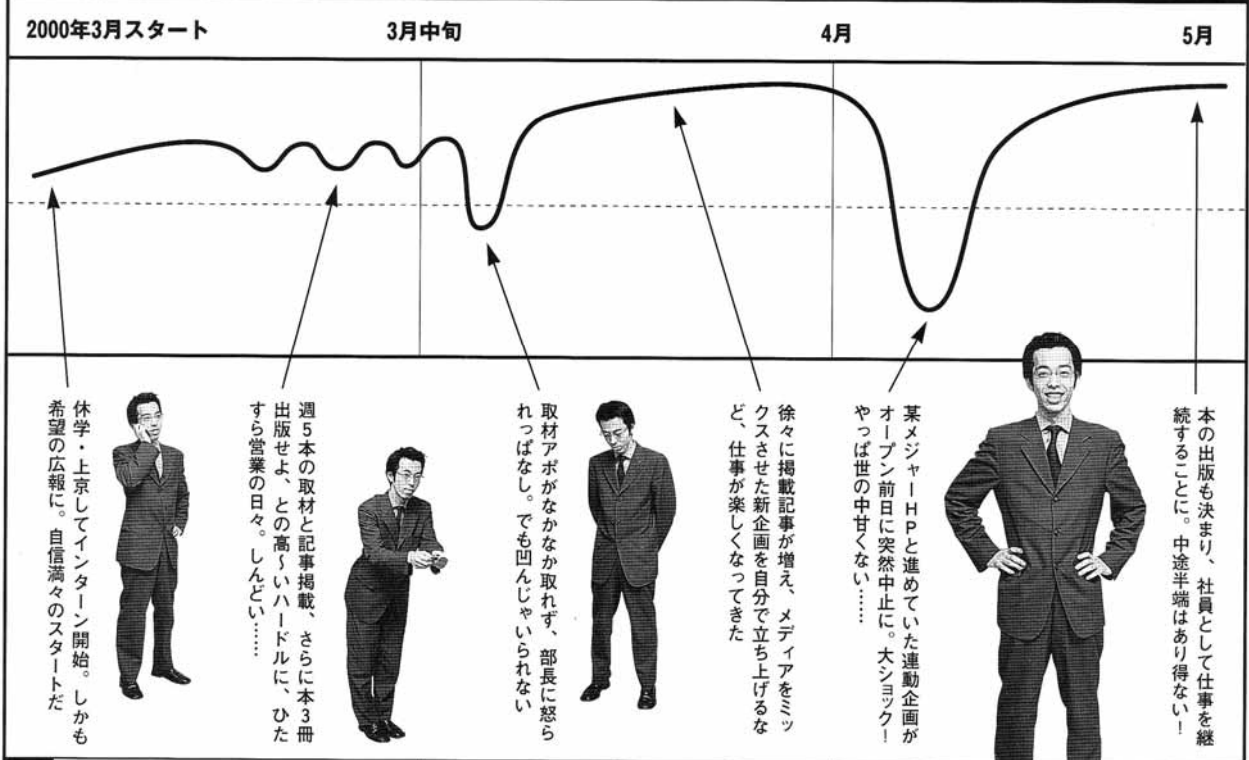
念願の広報に。でも実態は

ガイアックスは、ネット上に企業ブランドの「コミュニティー」を立ち上げ、運営管理を行うベンチャー企業だ。彼は念願の広報チームの一員となり意気揚々だった。早速、部長から指示が下った。「毎週5本のメディアから取材を受け、さらにガイアックスに関する記事を5本掲載してもらうこと」。想像以上に高いハードルだった。雑誌やサイトに、少しでも多く「ガイアックス」の文字を載せてもらわねばならない。無論、取材は黙っていても申し込まれない。こちらからPRし、取材のアポを取り付けるのだ。しかし、会社をPRするネタは誰も教えてはくれない。しかも、ただ取材をお願いするのでなく、そのメディアにと

「自分の力を試すなら、情報の中心地東京で、それもベンチャー企業で仕事してみたい」と、インターン先を東京のベンチャー企業「ガイアックス」に決めた。そして同級生たちが卒業していった3月、

た佐別当君は自信をみなぎらせていた。広告関係を狙っていたが、面接官より自分の方がよほど有能に見えた。自分は、他の人にはできない何かができるはずだった。しかし、面接では自分をなかなか評価してもらえず、いらだちが募っていった。「自分は何かできると思っても、社会に出ていない自分にとっては空論でしかない。まず社会に触れ、自分の力を見極めたい。今焦って就職するより、休学して1年をそのために使いたい」。そう思い始めた彼は、4年の6月には就職活動を中断。ボランティア活動などを始め、半年後、インターンシップと出合う。

インターンシップ期間中の佐別当君のモチベーション・グラフ



業務内容

- プレスリリースの作成・配信
- 取材を取り付けるための営業
- メディアからの取材対応
- ラジオやネットをミックスした新企画の立案・営業
- 本の出版のための営業
- 自社広告のイメージ作成
- 本の執筆・サポート

「初めて会ったときから、彼は他の学生とは違う高い志を感じていました。最初は不器用だったけれど、常に初心を忘れず、攻撃的な姿勢で社内外の人を巻き込み、具体的なアウトプットができるまでに成長しました。今後も事業と一緒に頑張ってください。いきなりメンバーの一人です」(ガイアックス営業部長・上田浩司さん)

インターン先企業の上司の証言

「初めて会ったときから、彼は他の学生とは違う高い志を感じていました。最初は不器用だったけれど、常に初心を忘れず、攻撃的な姿勢で社内外の人を巻き込み、具体的なアウトプットができるまでに成長しました。今後も事業と一緒に頑張ってください。いきなりメンバーの一人です」(ガイアックス営業部長・上田浩司さん)

「初めて会ったときから、彼は他の学生とは違う高い志を感じていました。最初は不器用だったけれど、常に初心を忘れず、攻撃的な姿勢で社内外の人を巻き込み、具体的なアウトプットができるまでに成長しました。今後も事業と一緒に頑張ってください。いきなりメンバーの一人です」(ガイアックス営業部長・上田浩司さん)

「初めに会ったときから、彼は他の学生とは違う高い志を感じていました。最初は不器用だったけれど、常に初心を忘れず、攻撃的な姿勢で社内外の人を巻き込み、具体的なアウトプットができるまでに成長しました。今後も事業と一緒に頑張ってください。いきなりメンバーの一人です」(ガイアックス営業部長・上田浩司さん)

「初めに会ったときから、彼は他の学生とは違う高い志を感じていました。最初は不器用だったけれど、常に初心を忘れず、攻撃的な姿勢で社内外の人を巻き込み、具体的なアウトプットができるまでに成長しました。今後も事業と一緒に頑張ってください。いきなりメンバーの一人です」(ガイアックス営業部長・上田浩司さん)

「初めに会ったときから、彼は他の学生とは違う高い志を感じていました。最初は不器用だったけれど、常に初心を忘れず、攻撃的な姿勢で社内外の人を巻き込み、具体的なアウトプットができるまでに成長しました。今後も事業と一緒に頑張ってください。いきなりメンバーの一人です」(ガイアックス営業部長・上田浩司さん)